

PIVIUK



新しい時代への跳躍

ARTIK R

アーティックアール



Diskus

Opak

Wasp

サイズ	21	23	25	27	29
セル数	64	64	64	64	64
投影翼面積 (㎡)	18.36	19.64	20.92	22.63	24.76
翼面積 (㎡)	21.5	23	24.5	26.5	29
スパン (m)	11.68	12.23	12.75	13.25	13.73
投影アスペクト比	4.97	4.97	4.97	4.97	4.97
アスペクト比	6.5	6.5	6.5	6.5	6.5
機体重量 (kg)	4.35	4.55	4.77	5.1	5.5
フライト重量 (kg)	65-85	80-95	90-105	100-120	110-135
認証 (EN)	EN C	EN C	EN C	EN C	EN C



 **AIRHEART**

新しい時代への跳躍

Artik 6やPeak 6などの2ライナーの開発で得た知識は、EN-C 2ライナーであるArtik Raceの開発に結実しました。

スピード、エアロダイナミクス、ハイパフォーマンスと同時に、アクセスのしやすさ、先進的な反応、EN-Cグライダーのパッシブセーフティを提供する、他に類を見ない体験ができます。

新しいArtik Rで最先端を行ってください。

ニビュークから 話題のCクラス・2ライナー！

ニビュークからリリースされた注目のCクラス2ライナーがアーティック Rです。待ちに待った試乗機が届いたので、早速レポートしましょう。

アーティック Rの "R" は、もちろんRaceの "R" に由来し、レーシングモデルのピークやクライマーなどの開発で得られた経験をベースに仕上げられています。

アーティックの名が冠されているので、現行モデルのアーティック 6とスペックを比較してみると、セル数はアーティック 6が66なのに対して64、アスペクト比は展開で6.3に対し6.5、投影でも4.85に対して4.97と差は僅かです。見た目も2ライナーであることをあまり感じさせませんが、その秘めたるパフォーマンスはどうか？ワクワクしながら試乗して確かめてみました。



アーティック 6と比べスペック上の差は大きくないが、2ライナー化されたことでパフォーマンスは劇的に向上している。



二チノールを広範囲に使うことで翼剛性を高めているが、適度な柔軟性も持ち合わせている。

乗り心地はどうか？

ライザーは、ほぼアイスピーク X-ONEです。ライン構成は、Aにメイン2本、A'に翼端側メイン1本とスタビラインが接続され、Bは3本、そしてブレークコードという構成です。キャノピー側では、AもBもアッパーで2列に分岐されています（ラインプラン参照）。

ライズアップ特性はニビュークらしくイージーで、軽くテンションを与えるだけで真っすぐ頭上に上がってきます。感覚的にはアーティック 6と遜色ないイメージです。テイクオフも然り、何の違和感もなく滑るように離陸できました。

アーティック 6やピーク 5など、従来のニビュークグライダーはどちらかと言えば剛性が高く「カチッ」とした印象でしたが、アーティック Rはむしろ「柔かい」と言った印象です。しかし、それは不安感を与えるようなものではなく、とても自然な印象です。

ハンドリングもアーティック 6と大きな差は感じられず、とても素直でダイレクト感があります。



Aが独立したアイスピーク X-ONE譲りのライザー構成。

スピードを効果的に使った フライトを！

特筆すべきポイントは、ライザーコントロールのし易さです。Bライザーにはニビュークお馴染みのBライザーコントロール用のバーが装着されていますが、とにかくコントロールが軽く、操作性がとても良いのです。空中での操作の大半は、Bライザーコントロールで済むのでは？と感じさせるほど使い易く仕上がっています。

旋回も思いのままのコントロールが可能で、それでいて前に突っ込むような挙動がないので安心してセンタリングに集中できます。

2ライナー機で気になるポイントがスピードです。トリムスピードでは他機と大きな違いは感じられませんが、ひとたびアクセルを踏むとアーティック 6とは明らかに違う加速が体感できます。2ライナーの本領は、スピードにあることを改めて感じることができます。

しかしながら、ランディングにおけるスピードコントロールは、低速が効くのでとても扱いやすいという好印象を持ちました。

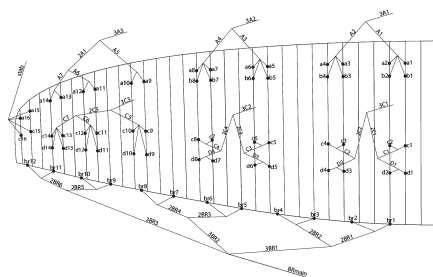
乗って欲しいパイロット像

今回、Cクラスの2ライナーとはどのようなものなのか、とても興味深く試乗して見たのですが、簡単に印象を語るとすれば「やはりアーティックだ!」と言うことに尽きます。

2ライナーと言うことを除けば、アーティックらしさを見事に継承し、バランスの良い扱いやすいグライダーに仕上がっています。

Cクラス機を1機以上乗り込んだアクティブなパイロットには是非チョイスして欲しい1機です。2ライナー入門機として、ベストパートナーとなることでしょう。

REPORT. 藤野光一



ラインプランはA/Bライン共アッパーで2列に分岐、特に内側2本のAラインは前後にも分岐している。